

微分可能レンダリング

加藤 大晴^{1,a)}

概要: 三次元モデルのレンダリングを深層学習のレイヤーとして用いること (=微分可能レンダリング) によって、三次元空間のモデルと二次元空間のモデルをまとめてひとつの大きなニューラルネットワークとして扱うことができるようになる。これはグラフィクスとビジョンの境界領域にある技術で、画像を入力とした三次元モデルの推定などに応用されてきている。本講演では、微分可能レンダリングの基本的な考え方、応用例、ソフトウェアとその限界についてを紹介する。

¹ Preferred Networks, Tokyo, Japan

^{a)} hkato@preferred.jp